

こころ育てる絵本との出会い

マウ'ちゃん通信

2016 6 - 7 vol. 38

絵本作家インタビュー ミロコマチコ

特集 郷土・富山の作家



ミロコマチコ

ダイナミックな筆致と色使いで
ほとばしるような生命力を描く
ミロコマチコさん。
想像するって楽しいなあ！って
思ってもらいたい。



ミロコマチコ プロフィール

1981年、大阪府生まれ。画家・絵本作家。いきものの姿を伸びやかに描き、国内外で個展を開催。絵本「オオカミがとぶひ」（イースト・プレス）で第18回日本絵本賞大賞を受賞。「てつぞうはね」（プロンズ新社）で第45回講談社出版文化賞絵本賞、「ぼくのふとんは うみでできている」（あかね書房）で第63回小学館児童出版文化賞をそれぞれ受賞。その他の絵本に「つちたち」（学研）など。その他の著書に画文集「ホロホロチョウのよる」（港の人）、画集「けだらけ」（筑摩書房）などがある。2015年、絵本「オレときいろ」（WAVE出版）でブラティスラヴァ世界絵本原画展ビエンナーレ（BIB）金のりんご賞を受賞。2014年伊勢丹クリスマスメインビジュアルを担当。美術同人誌「四月と十月」の同人。

絵本原画展開催

平成28年6月1日(水)～7月21日(木)

原画展示絵本



『てつぞうはね』（プロンズ新社）
白くて、大きくて、あばれ猫、てつぞうの好きなものやきらいなものが、飼い主である「私」の視線で丁寧に描かれています。やがて、てつぞうはこの世からいなくなり、すが、私は2匹の子猫と出会います。てつぞうからソトとボウへ、命の巡りを感じます。



『ぼくのふとんは うみでできている』（あかね書房）
「うみ」でできているふとんで、ぼくは猫のシロと一緒泳ぐ。パンでできているふとんはいいにおいがするからつい食べちゃう。ふしぎなふとんで、夢を見る夜、夢から覚める朝を行ったり来たり。今日はどんなふとんかな？

夏のギャラリーでは、自らが飼っていた猫を描いた絵本『てつぞうはね』と想像力を刺激する『ぼくのふとんは うみでできている』の2冊をご紹介します。

ミロコマチコ先生にインタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

15歳のときに弟と観に行った人形劇をきっかけに児童文学にはまるようになり、それから絵本も自然に読むようになり、その自由で突拍子もない世界にのめり込みました。大学を卒業してから絵本を本格的に作るようになりましたが、同時に絵の面白さにも没頭してしまい、気づけば絵本を作らず展覧会ばかりしていました。その展覧会をずっと観に来てくださっていた絵本編集者の筒井大介さんに声をかけられて「オオカミがとぶひ」を作ったのがきっかけです。

画材は何を使っていらっしゃいますか？

ケント紙や画用紙にアクリル絵の具で描いています。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『てつぞうはね』
8年間一緒に暮らしていた愛猫のてつぞうのエピソードを綴ったカレンダーを出していたところ、プロンズ新社の編集者さんの目に留まり、出版することになりました。てつぞうを亡くしてからまだ日が浅かったので、ラフを描くときから号泣で、打ち合わせの度に

目を腫らしていました。でもその気持ちをぶつけられたことがとても重要でした。そして兄弟の猫ソトとボウと新たに暮らし始めていたことも、お話を作る上で、すごく大切な部分になりました。

『ぼくのふとんは うみでできている』

怖いことを考えながら眠ると怖い夢を見る。トイレを我慢している夢を見て起きると、本当にトイレに行きたい。そんな風に現実と夢はずっと続いていて、永遠にぐるぐる回っているんじゃないかなと思って作った絵本です。こんな夢を見た現実では何が起きているんだろうと、お話を考えるときはひとり遊びをしているみたいでとてもワクワクしました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

『オオカミがとぶひ』
念願のデビュー作です。数年間、絵だけを描き続けた結果、あるきっかけさえ掴むと、自然と描きたいおはなしがスルスルと出てきました。ここはどうしよう、と思いつくことがなく、無理矢理作ったところはどこにもなかったです。描きたいものはこれだ！と作れることは幸せで、とても喜びに溢れていたの、印象深い1冊です。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

なるべく説明的にならないように、自分の

描きたいものを素直に描いています。そして勢いを大事にしたいです。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

想像するって楽しいなあ！って思ってもらえたら嬉しいです。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

次は不穏な絵本を作りたいと思っています。得体の知らない気配を醸し出しているような絵本です。

ご趣味についてお聞かせください。

主に野良猫を探すための散歩です。毎日会う顔、初めて見る顔、ひなたぼっこしている猫、喧嘩している猫、どれも面白くてつい探してしまいます。

お好きな言葉を教えてください。

「張り切る」です。

ファンの方々にメッセージをお願いします。

生き物たちの強くてかっこよくておかしな姿。そこから生まれるわたしの絵本を読んでも、絵を見てどんな形でも感じてもらうことが多ければ多いほど嬉しいです。

ミロコマチコ先生、ありがとうございました！

ミロコマチコ先生サイン入りの絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
ミロコマチコ サイン本プレゼント係
締め切り 平成28年8月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『ぼくのふとんは うみでできている』（あかね書房）

創作教室レポート

第10回「玉分先生とつくろう!」
3/26



27年度最終回となる創作教室では、カフエギャラリーで個展開催中の銅版画家、玉分昭光さんを特別講師にお迎えしました。国内にとどまらず海外でも活躍している玉分さんに教わりながら、親子で協力してカラフルな毛糸のかつら作り挑戦しました。かつらをかぶった子どもたちはみんな大はしゃぎ！作り上げた達成感と、変身の喜びを体験し、思い出深い充実した創作教室となりました。

28年度もバラエティに富んだ素材を使って親子で楽しむ「ものづくり」を提案していきます。あなたも創作教室に登録しませんか。

毛糸をまくのはむずかしかったけど、切るのは美容師さんになったみたいで楽しかったです。(あやねさん・6歳)

こんなに簡単にかつらを作ることができるなんて!何かのイベントで使ってみようと思っています。(好美さん・お母さん)

イベントレポート

tupera tupera
絵本原画展



2、3月のギャラリーでは、カラフルで可愛らしく、ユーモアに溢れるtupera tuperaさんの絵本原画展を開催しました。展示したのは『パンダ銭湯』と『タコさんトコトコどいくの?』(ともに絵本館)の2冊の絵本原画。なかでも、パンダの家族が銭湯に行くところから始まる『パンダ銭湯』は、寒い季節にぴったりです。なんと、誰も知らないパンダだけの秘密を守るために、パンダ専用の銭湯があるのです。その衝撃的な秘密に思わず笑ってしまいます。お風呂に入っているパンダ達はとても気持ちよさそうで、見ているこちらまでポカポカと温まってきました。

3月20日(日)には、「tupera tupera えほんLIVE!」を開催しました。絵本の読み聞かせや、毛糸玉と軍手を使ってパンダをつくるミニワークショップを行いました。完成したパンダを使って、『パンダ銭湯』を会場の皆さんで読み上げ、大いに盛り上がりしました。サイン会は先生と直接話せる貴重な機会とあって、大人気でした。



特集 / 郷土・富山の作家

絵本の先輩たちの志を継いで

大島絵本館では「手づくり絵本コンクール」を年間2回行っています。国内外の18歳以上対象のものと、国内の高校生以下対象のもので、特別賞として前者には井口文秀賞、後者には吉田力賞を設けています。井口文秀賞は富山県出身の著名な絵本作家・井口文秀氏を顕彰して優秀な作品に贈られるものです。吉田力賞は絵本館創設者の旧大島町長・吉田力氏の遺志を受け継ぐと思われる射水市在住の優秀な作品の応募者に限られて贈られるものです。

*

井口文秀氏は明治42年(1909)に富山県朝日町に生まれ、太平洋美術学校を卒業後、出版社の少年向け図書の挿絵(主として国語、音楽の教科書に載せる挿絵など)を多く手掛けた。後に創作絵本に専念されて、自然と人間との深いかわりをテーマとした作品を多く発表されました。主な作品として『コリヤよはばたけ』(童心社)『ふうれんこのはくちようじいさん』(くろべのツンコぎつね)ともに小峰書店)など、多数あります。小学館児童文化賞、サンケイ児童出版文化賞、絵本にっぽん大賞などの受賞や、児童文化功労者表彰も受けておられますが、平成4年(1992)に83歳で亡くなりました。氏の絵本で多く子どもたちが未来への夢を育まれました。

夢を育むといえ、富山県出身の童話作

家・大井冷光氏が思い浮かびます。本館でも冷光氏の功績を讃えて過去数度「大井冷光まつり」を開きました。

大井冷光氏は明治18年(1885)に現在の富山県水橋常願寺に生まれ、誕生前に父が亡くなり、9歳の時に母も亡くなって伯父の家で養育されました。そんな冷光少年の孤独な心を癒したのが童話でした。11歳の時に巖谷小波氏の「天狗杉」を聴き、それ以来、終生、童話への熱い想いを抱き続けました。富山県農学校(現・南砺福野高等学校)卒業後、兵役等を経て郷土の新聞社に勤め、23歳の時に富山に巖谷小波、久留島武彦の両氏が講演で訪れた折り、冷光氏の童話への熱い想いが更に高まり、また、彼の想いも両氏に伝わって久留島氏に見出されて翌年に上京します。上京後は少年少女向けの雑誌編集に携わる傍ら、童話の創作に励み、数々の優れた童話を世に発表しながら童話の口演で全国を巡りました。ですが、大正10年(1921)神奈川県逗子小学校で童話口演中に倒れ、そのまま亡くなりました。36歳でした。生涯を童話にかけ、燃え尽きたかのような一生でした。

*

井口文秀氏、大井冷光氏といい、まだ他にも郷土・富山には子どもたちに夢を育んだ素晴らしい先輩たちが多くいます。この先輩たちの後に続くように今後も頑張りたいと思っています。

私のおすすめ絵本

『ふうれんこのはくちようじいさん』

井口文秀 / 作
小峰書店

戦後30年以上にわたって白鳥の保護にすべてを投げうった一人の老人、工藤さんの半生を描いた絵本。原画は当館所蔵。

『ベトナム戦争で米軍の枯葉剤の犠牲となった兄弟。』

松谷みよ子 / 作 井口文秀 / 絵
童心社

ベトナム戦争で米軍の枯葉剤の犠牲となった兄弟。「どうしてぼくたちだけがみんなとちがうの?」彼らの訴えをとおして平和への願いを描いた絵本。

『くろべのツンコぎつね』

大前輝明 / 作
井口文秀 / 絵
小峰書店

子持のきつねを撃ってしまった狩人のせいさく。連れて帰って育てた子ぎつねは家族の人気者になったが…。雪深い富山県黒部の大自然も見事に描かれている。

『くらげほねなし』

藤かおる / 作
井口文秀 / 絵
ほるぷ出版

くらげにはどうして骨がないのか? くらげはともおしゃべりで、それが災いして百叩きの刑に…。竜宮城を舞台にした昔話。

『お月さん ももいろ』

松谷みよ子 / 作
井口文秀 / 絵
ポプラ社

さんごをもつことを許されなかった時代、土佐の海辺を舞台にくりひろげる、少女おりのと狼師と吉の悲しい愛の物語。

『きんの まど』

井口文秀 / 作
至光社

ぼろぼろの家が嫌なロバは、遠くの丘に暖かそうに光る窓を見つけ、その「きんのまど」を求めて山を下りるが…。

射水市大島絵本館

おすすめ絵本
50冊 2016年度

よちよちえほん

『かくれんぼどうぶつえん』
今森光彦 / 作 石津ちひろ / 文 アリス館
『びよちゃんのいもうと』 他シリーズ
いりやまさと / 作 絵 学研
『つくろう・たべようフルーツパンケーキ』
さか井美由希 / 絵 ぴかりのくに
『もののえほん いちにち』 シリーズ全3冊
大塚YUCA千里子ども図書室 / 文 大塚いちはる / 絵 福音館書店

むかしむかし

『いっすんぼうし』
山下明生 / 文 山本 幸 / 絵 あかね書房
『封神演義 ナージャとリウウおう』
子 大武 / 絵 鹿 亜明 / 文 講談社
『3びきのくま』
スズキ コジ / 文 絵 鈴木出版

めいさく童話

『てぶくろをかいに』
新美南吉 / 文 柿本幸造 / 絵 講談社
『雨ニモマケズ』
宮沢賢治 / 詩 松成真理子 / 絵 あすなろ書房
『プレーメンのおんがくたい』
ゲルダ・ミュラー / 作 ふしひ みさを / 訳 BL出版
『ねむりひめ』
グリム / 原作 サラ・ギブ / 絵 角野栄子 / 訳 文化出版局

いきもの

『てつぞうはね』
ミロコマチコ / 著 ブロンズ新社
『ノラネコぐんだん おすしやさん』 他シリーズ
工藤ノリコ / 著 白泉社
『かもめ たくはいびん』
いしい ひろし / 著 白泉社
『おおかみだあ!』
セドリック・ラマディエ / 文 ヴァンサン・ブルジョ / 絵
たにかわ しゅんたろう / 訳 ポプラ社
『きつねのおきやくさま』
あまん きみこ / 文 二保英五郎 / 絵 サンリッド
『にじ』
ジークフリート・ビールプレヒト / 作 ヨゼフ・ウィルコン / 絵
いづみ ちほ / 訳 セーラー出版
『リンドバーク空飛ぶネズミの大冒険』
トーマン・クルマン / 作 金原瑞人 / 訳 ブロンズ新社

ものしりえほん

『たんぼぼ』 他シリーズ
荒井真紀 / 文 絵 金の星社
『築地市場 絵でみる魚市場の一日』
モリナガ ヨウ / 作 絵 小峰書店
『MAPS 新・世界図鑑』
アレクサンドラ・ミジェリンスカ & ダニエル・ミジェリンスキ / 作 絵
徳間書店児童書編集部 / 訳 徳間書店
『このよで いちばん はやいのは』
ロバート・フロマン / 原作 天野祐吉 / 翻案
あべ弘士 / 絵 福音館書店
『決戦! どうぶつ関ヶ原』
コマヤスカ / 作 笠谷和比古 / 監修 講談社
『アンリ・ルソー』
ミシェル・マール / 作 アマンダ・ホール / 絵 志多田 静 / 訳 六耀社

のりもの・ファンタジー

『ほししいたけ ほしあたたけ』
石川基子 / 作 講談社
『どうぶつごろう』
京極夏彦 / 作 石黒亜矢子 / 絵 東 雅夫 / 編 岩崎書店
『うめじい たんじょうび』
かがい ひろし / 作 講談社
『しんかんせん だいこう』
間瀬なおたか / 作 絵 ひさかたチャイルド

しぜん・かんきょう

『野菜列伝 忍其の一 忍者にんく丸』 他シリーズ
川端 誠 / 作 BL出版
『ローゼーの庭』
市川里美 / 絵 エリザベス・スレード / 文 坂崎麻子 / 訳 リポポート
『ゆき』
きくち ちさ子 / 著 ほるぷ出版

こよみ

『まどから おくりもの』
五味太郎 / 作 絵 偕成社
『おにはとと! ふくはうち!』
いもとようこ / 文 絵 金の星社
『おひなまつりのちらしずし』
平野恵理子 / 作 福音館書店

芸術

『あいであ』
このあおい / 著 アノニマススタジオ
『あけるな』
谷川俊太郎 / 作 安野光雅 / 絵 復刊ドットコム
『モナ・リザはチョコの色』
坂崎千香 / 作 絵 美術出版社

8・9月イベント

シアター・パフォーマンスホール
セタコンサート

とき/8月7日(日) 13時~13時30分
出演/混声合唱団絵本こころアルカディア

開館22周年記念感謝デー
第11回絵本館まつり 入館無料

とき/8月21日(日) 9時30分~16時30分
出演/ヒエロのバット君

ジャック・ランダル(影絵パフォーマンス)
ステージショーの他、絵本マーケット、ミニ縁日などを開催。

全国絵本ミュージアム会議
※入館無料ですが、イベントには整理券が必要です。

とき/9月11日(日)

全国にある絵本美術館の代表が集合。
ミュージアムの未来を語り合います。
記念トークイベントには日本を代表する詩人 谷川俊太郎さんをお迎えします。

カフエギャラリー

松田真治 テラコッタの女

とき/8月3日(水)~8月16日(火)

福島あすき 藍染展 由時間~まじかん

とき/8月17日(水)~8月31日(水)

お花島 高桑英隆 うつわ展

とき/9月2日(金)~9月15日(木)

山本征世 心惹かれるもの

とき/9月16日(金)~9月29日(木)

ギャラリー
ヨゼフ・ウィルコン 絵本原画展

とき/7月23日(土)~9月22日(木祝)

展示原画
当館収蔵作品全点

